

製造現場のリーダーシップ実践 ワークショップ提案書

セミナーの学びを「明日からの行動」へ変える、2つのグループワークプログラム

提案する2つのワークショップ設計

【WS 1】事実ベースの冷静な伝達

機械トラブルや手順不備など、問題発生時の感情的な対応（NG行為）を抑え、客観的かつ相手の言い分にも耳を傾ける「建設的な対話プロセス」を体得します（セミナー第4～6章に対応）。

【WS 2】日常の気づきから始める現場改善

「いつもこうだから」と不便を放置せず、手順の無駄や動線の課題などを主体的に見つけ出し、チームで協調して全体最適な改善を行う仕組みを考えます（セミナー第7～8章に対応）。

【ワークショップ1】 事実ベースの対話

感情的な対立を排除し、安全確認手順の不備やミスを冷静に解決するための話し方を学びます。

WS1の到達目標と実践ケース

- **事実へのアプローチ（受信と発信）**

感情的に「人間性」や「確認不足」を責めず、何が起きたか（事実）を冷静に突き止める手法を体得。

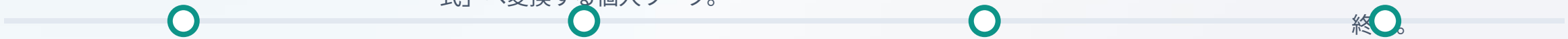
- **相手の背景の傾聴**

言い訳としてシャットアウトせず、「なぜその手順を省いたのか」に耳を傾け、客観的対話を進める。

- **演習テーマ例：安全確認漏れの指摘**

「パレットが倒れかけている危険な状態」や「機械手順を飛ばしたメンバー」にどう冷静かつ率直に注意するか。

WS1：プログラムフロー（計60分）



1. インプット (15分)

「事実と評価の切り分け」
「OK・NGの姿勢例」をレクチャー
（研修のおさらい）。

2. ケース個別分析 (15分)

安全手順不足の仮想ケースを読み、
自分の言葉を「NG形式からOK形
式」へ変換する個人ワーク。

3. ロールプレイ (20分)

ペアになり「指摘側」と「受取側」
を交互に体験。客観的に事実が伝
わったかをフィードバックし合う。

4. 振り返り (10分)

日々の現場で明日から使う「私の冷
静対話ステートメント」を決定して
終。

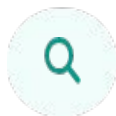
【ワークショップ2】気づきからの現場改善

生産プロセスの小さな不便を放置せず、全体最適な優先判断を考慮して自発的改善モデルを作ります。

主体的な改善力を育む

「いつもやりにくいと感じる工具の配置」「動線の微妙な無駄」といった日常的な違和感を放置せず、主導してチーム全体に相談し協調的なプロセスで改善を進めるマインドを醸成します。

WS2で身につける3つの行動ステップ



1. 気づきを疑う

日常の作業手順を客観的に見つめ直し、「もっと良くできないか」「この配置は無駄ではないか」と自問自答します。



2. 全体最適での優先判断

トラブル時にスピードより安全確認を優先するように、自分の作業領域だけでなく前後工程へ配慮した優先順位を判断します。



3. チームとの協調改善

一人で勝手にやり方を変えるのではなく、状況を素早く周囲に共有し、相談のうえで全体の仕組みをアップデートします。

WS2：タイムテーブル詳細（計70分）

時間	プログラム内容	ワークショップでの具体的な作業・アウトプット
15分	事前インプット & 個人課題抽出	各自「やりにくい」「危険を感じる」などの現場の課題を付箋に書き出す。
25分	グループ討議（課題の整理）	グループ内で類似した課題を整理し、「解決のためのチーム改善策」を1つ決定する。
20分	アイデア発表会 & フィードバック	各チームから改善アイデアを提示。全体最適の視点があるか、実現可能か相互コメント。
10分	アクション宣言	「私が明日から実行する、小さなカイゼン工夫」を個人の行動宣言に落とし込む。

ご質問はありますか？

一人ひとりの「小さなリーダーシップ行動」が、より安全で働きやすい製造現場を創り上げます。

セミナー事務局：ワークショップ運営担当まで